

もしも真冬に災害が起きたら!?

冬季災害 に備えよう!

月寒断層による地震災害想定被害

死者	8,234人※
重軽傷者	34,395人
避難場所避難者	110,666人
建物被害	112,461棟
焼失建物	560棟

※「要救助者を2時間以内に救助できない場合、凍死する」と仮定した場合の死者数。

左の表は、札幌の地中を走る月寒断層による地震が発生し、真冬の早朝5時ごろ、震度6強の激しい揺れが市街地で起こったと仮定した際の札幌市全域の被害想定数です。厳冬期における災害は、救助遅延による凍死の可能性もあり、防災を考えるときには、特に防寒について考慮しなければなりません。冬季災害の防災について「自助・共助・公助」の観点から考え、備えておきましょう。

【このページについての問い合わせ】

西区総務企画課地域安全担当 Tel 641-6921

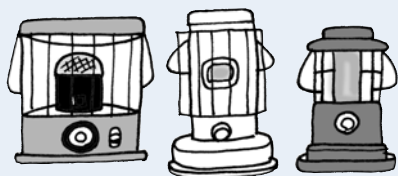
自助 自分で守る!

防災の基本は「自分（家族）の身は自分で守る」です。災害時に落ち着いて行動ができるように、家族同士で話し合ったり非常持ち出し品を確認しておくなど、日頃から災害に備えておきましょう。



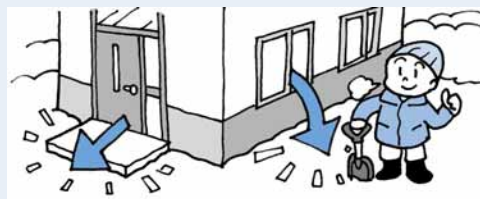
●停電時の防寒対策

災害により停電になった場合の一時的な防寒対策として、移動式灯油ストーブを備えておくこと便利です。



●こまめに除雪をして避難口を確保

災害時には、玄関だけではなく窓も避難口になります。玄関や窓の付近は、日頃からこまめに除雪し、避難口を広く確保しておきましょう。



●防寒を考えた非常持ち出し品の準備

避難時に備え、リュックなどに必要な物を入れていつでも持ち出せる場所に保管しておきましょう。

<p>ダウンジャケット、手袋、帽子、カイロなど</p> <p>防寒具</p>	<p>飲料水、ビスケット、缶詰など</p> <p>食料・飲料水</p>	<p>現金、預金通帳、キャッシュカードなど</p> <p>貴重品</p>
	<p>傷薬、胃腸薬、常用している薬など</p> <p>救急セット</p>	<p>ラジオ、懐中電灯、ライターなど</p> <p>その他</p>

●家庭内における安全対策

災害時には、大型家具の転倒や割れたガラスでけがをしたり、暖房器具の使用による火災の発生率が高くなるため、日頃から家庭内で、安全対策をしておきましょう。

<p>天井や壁に固定</p> <p>家具を固定する</p>	<p>ガラス飛散防止フィルム</p> <p>転倒方向に寝ない</p>	<p>燃えやすい物を近くに置かない</p>
-------------------------------	------------------------------------	-----------------------